

## 平成28年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成29年5月9日

代表者 鈴木 晴子

研究課題名	保育者を目指す学生の障害観の変容と障害児保育における専門性の構築過程に関する研究V
研究期間	平成28年4月1日～平成29年3月31日
共同研究者	潮谷 恵美・山田 陽子・権 明愛
1. 今年度の研究概要	
<p>2012年の児童福祉法改正から障害児支援の強化が進み、保育者は多様な社会的ニーズに対応することがより一層求められるようになった。就学前の障害児の保育・教育の在り方の変化に伴い、保育・教育現場の役割はますます多様化し、保育者とその重要な担い手として期待されるのは必至である。本学では地域の保育所及び幼稚園に実習生を送り、また現場の協力で育った学生を地域の保育所と幼稚園に送り出すという地域と大学の往還型の教育に取り組んできた。保育者を目指す学生の障害児保育における専門性の向上は、地域の保育所及び幼稚園の障害児保育の質の向上に直接影響を与えると考えられる。保育者養成課程における障害児保育の教育の在り方について検証する必要があると考え、本研究は本学共同研究及びプロジェクト研究費を基に平成24年度から継続研究している。本研究では、保育者養成課程に在籍する学生及び卒業生を対象に質問紙調査及びインタビュー調査を実施し、特別なニーズを持つ子どもに対する知識・技能の習得と専門性の構築過程を検証して、現状を析出し課題を明らかにすることを目的とする。</p> <p>研究方法は、質問紙調査及びインタビュー調査を採用している。</p> <p>質問紙調査では幼児教育学科1年生に実施し、保育者養成課程に入学する前の障害児との出会いの実態把握を進め、入学時点での障害観や障害児保育に対する思いや考えの確認を進めている。質問紙調査は、幼児教育学科1年生の卒業必修科目において研究協力に関する説明を行い、任意での調査であり、同意の得られた学生にのみ調査を依頼している。</p> <p>次に、インタビュー調査は、平成24年度に本学幼児教育学科に入学し継続研究の同意を得えられた8名のうち、今年度の研究に対して研究協力の同意が得られた6名を対象に実施した。従来のインタビュー項目に、社会人保育者となってからの特別なニーズを持つ子どもに対する知識・技能の習得と専門性の構築過程が追えるインタビュー項目を追加して行った。</p>	
2. 研究の成果	
<p>本研究により確認されたことを以下に記す。</p> <p>1. 質問紙調査「障害のある子どもとの出会いに関する調査」について</p> <p>研究対象者の多くが、保育所・幼稚園から高等学校までの過程で障害児と出会っていることがわかった。これは、平成24年度からの継続研究で得られた結果と同じ傾向であり、特殊教育から特別支援教育へと移行したことと関係すると推察している。障害児と捉えるに至る過程では、出会いの場面や相手のニーズ等を手掛かりに、あの子は障害のある子どもとして認識していることが窺えた。保育所・幼稚園時代から障害児と出会い、共に過ごす体験を持つ学生が多い世代になったといえる。今回の研究対象者のうち、6名から継続研究の承諾が得られた。この後、インタビュー調査において継続研究を行っていく。</p> <p>2. インタビュー調査：社会人保育者1年目となった成長と変化</p> <p>インタビュー調査の結果から、平成28年度に社会人保育者1年目を迎え、多くの学生が担任保育者として携わっていた。6名共に共通する語りは、「事実としてある・いることはわかっていたが、本当に障害のある子どもと関わることになるとは思っていなかった。障害のある子どもが担当クラスにおいて、「自分が携わる子ども」として意識するようになってから、インクルーシブ保育の</p>	

必要性と、保育・教育の場における保育の難しさと環境構成の理解のなさや課題の多さを痛感している」というものであった。しかし、子ども理解やかかわりに必要とされるであろう知識技術の習得への取り組みはほとんどなく、その場その場でかかわりを模索しているという共通項も見られ、インクルーシブ保育に対応し得るキャリアパスの構築と提言の必要性が考察された。今後も継続していく。また、保育所を除く児童福祉施設や社会福祉施設に就職した卒業生を対象とした現職者研修を開催し、専門職向上のニーズ調査と方法論の検証に着手していきたい。

### 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

#### （1）研究成果の公表実績

本研究は2012年度からの継続研究である。平成28年度は以下において研究成果の発表を行った。

- ・平成28年度 日本特殊教育学会研究大会において「保育者を目指す学生の障害のある子どもの保育に携わるイメージ—大学4年生の「今、ここ」でイメージしていることに焦点をあてて—」のポスター発表を行った。
- ・平成28年度の本学の紀要論文集に投稿をし、受理された。

#### （2）研究成果の発表予定

- ・平成29年6月頃に障害のある子どもとの出会いに関する調査Ⅴ 2016年度報告書の刊行する予定である。
- ・平成29年9月に開催される日本特殊教育学会に成果報告を行う予定である。
- ・平成29年度の本学の紀要論文集にエントリー予定である。その他、学会誌投稿にエントリーする予定である。

## 平成 28 年度(2016 年) 研究概要

研究所・部門	プロジェクト研究
研究課題名	保育者を目指す学生の障害観の変容と障害児保育における専門性の構築過程に関する研究Ⅴ
研究代表者	鈴木 晴子
研究期間	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 3 月 31 日
共同研究者	潮谷 恵美・山田 陽子・権 明愛

## 1.研究成果取組状況

## (1)国内外の学会発表

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	招待講演
発表済	鈴木晴子・潮谷恵美・山田陽子・権明愛, 「障害のある」子どもと「ない」子どもが共に過ごすとは—保育・教育の場で保育実践する社会人保育者1年目の語りから—, 日本特殊教育学会第 55 回大会, 2017 年 9 月 16 日, 名古屋国際会議場	
発表予定		

## (2)雑誌論文(学内紀要含む)

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所	査読有無
投稿済		
投稿中 投稿予定	鈴木晴子・潮谷恵美・山田陽子・権明愛, インクルーシブ保育に向けた保育者の養成・育成と課題, 十文字学園女子大学研究紀要第 48 集, 2017 年 3 月	有

## (3)図書等の出版

状況	発表者, 発表課題, 学会誌名, 発表年月日, 発表場所
出版済	
出版予定	

(4) シンポジウム・講演会等の開催

状況	主催者名・協賛社名等, 講演(発表タイトル), 実施年月日, 実施場所
開催済	
開催予定	

(5) 本研究に関連して本学経費以外に支援を得た補助金など

年度	機関・財団名, 事業名, 課題名